

# 魅力発信！えひめ農業 NOW

令和5年9月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、9月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564


<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>



## 目次



目次	1
9月のトピックス5選	3
秋作メロンの年末販売に向けた貯蔵技術を検討	3
「しまなみ柑橘研究会」を開催	3
青年農業者が新規就農者の悩みにアドバイス	4
愛南町で「儲かる農業交流セミナー」を開催	4
西洋野菜ラディッキオの栽培面積が増加	5
えひめ農業NOW	6
■東予地方局地域農業育成室	6
さといも試し掘りと今後の留意点を指導	6
農業機械オペレーターらが農業機械のセルフケアについて学ぶ	6
新規就農者の家族経営協定締結・認定農業者認定を支援	7
新規就農者の販路拡大に向けて	7
認定農業者を対象に経営研修会を開催	8
他地区の青年農業者協議会との交流会を開催	8
地元産はだか麦を使ったみそづくりの撮影	9
■東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班	9
四国中央市のさといも収量・品質は平年並みの見込み	9
SNSでの情報発信を見据えた地産地消研修会の開催	10
■東予地方局産地戦略推進室	10
いちご定植講習会と花芽検鏡を実施	10
花木の排水対策の実証を開始	11
■今治支局 地域農業育成室	11
秋の味覚！今治産さといもの出荷始まる	11
集落営農組織が新たにいちご栽培を始める	12
さくらひめメンバーが農林水産業の魅力を発信	12
「瀬戸の晴れ姫」一次審査(園地巡回)の実施	13
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	13
しまなみ鳥獣害対策講習会を開催	13
西日本豪雨被災園(再編復旧園地)で営農再開に向けた土づくりを開始	14
■今治支局 産地戦略推進室	14
グループ結成1周年を迎え活動の幅が広がる	14
リアルタイム農業診断システムを活用した廃液利用によるコスト低減技術実証がスタート	15
イタリア野菜類の産地化に向けた実証栽培及び地元レストランとの意見交換会の開催	15

■中予地方局 地域農業育成室	16
浅海原基盤整備園で土づくり研修会を開催	16
「どてかぼちゃカーニバル」4年ぶりの開催を支援	16
障がい者支援機関の連絡会議で農福連携事例を紹介	17
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	17
集落営農組織の経営改善を支援	17
花き生産者と市場をつなぐ！情報交換会開催	18
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	18
新規栽培者に雑穀の適期収穫等を指導	18
青年農業者が地元篤農家を訪問し技術力アップ	19
■中予地方局 産地戦略推進室	19
パクチーの夏季安定栽培に向けて	19
■南予地方局 地域農業育成室	20
さといもの出荷開始を前に掘り取り調査を実施	20
「第3回ニューファーマー講座」で若手農業者に補助事業の活用を推進	20
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	21
鬼北町の小学校でぶどうの収穫祭を開催！	21
きゅうり栽培における環境モニタリングの研修会を開催	21
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	22
ドローンを活用した園地状況の調査と寒害対策を高校生に指導	22
■南予地方局 産地戦略推進室	22
販路開拓に向けて産直市連携イベントへ出展	22
産地とつないだ「ライブ食育」で魅力を伝える	23
■八幡浜支局 地域農業育成室	23
連年安定生産に向けた摘果及び土壌分析・土づくりによる効率施肥研修会を開催	23
労働力確保に向けた手法を学ぶ	24
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	24
大規模トマト法人がIPM技術を学ぶ	24
一次産業女子グループが夜市マルシェを開催	25
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	25
農作業事故ゼロを目指し青年農業者が農業機械の安全使用を学ぶ	25
新規販路を切り開く、商談会で「高原カルストにんにく」をPR！	26
スマート農業を体感	26
■八幡浜支局 産地戦略推進室	27
さといも栽培管理のポイントを振り返りレベルアップ！	27
西予産ねぎ、地産地消マッチングフェアへ出展	27
媛小春への期待値上昇中	28
■農産園芸課 高度普及推進グループ	28
若手普及員の技術力向上に向けて	28
県内女性農業者の交流と郷土食の伝承を図る	29



## 9月のトピックス5選

標 題	秋作メロンの年末販売に向けた貯蔵技術を検討		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年9月28日(木)	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	JA周桑、三井物産プラスチック(株)	連携機関	JA周桑	
普及指導内容	<p>○11月上旬に収穫される秋作メロンを12月に販売するための貯蔵技術を検討するため、JA周桑と連携して鮮度保持資材メーカーとのリモート会議を行った。</p> <p>○普及ビジョンでは、秋作メロンの長期保存の実証は、令和7年度から取り組むこととしていたが、知見を集積するため今年度から予備試験を開始する。</p> <p>○今回、貯蔵用包装資材「エクステンド」を取り扱う三井化学プラスチック(株)と、北海道産メロンへの導入事例の意見交換と今後の予備試験の実施方法について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○その結果、供試するメロンの大きさや梱包方法等の具体的な試験方法については、今後JA周桑と協議した上で、再度メーカーと打合せをすることとした。</p> <p>○同様の貯蔵資材には他の製品があり、それぞれの特徴を比較する必要があることから、他製品のメーカーともリモート会議を行う予定。</p>			
 <p>リモート会議による情報収集</p>				

標 題	「しまなみ柑橘研究会」を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和5年9月13日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	しまなみ地域かんきつ生産者(60人)	連携機関	今治市・上島町・JAおちいまばり	
普及指導内容	<p>○当班では、「紅まどんな」の高品質安定生産技術の普及や省力化技術の導入促進を図るため、関係機関と連携し、「しまなみ柑橘研究会」を開催した。</p> <p>○研究会では、「紅まどんな」の枝梢管理技術やかんきつの有機栽培技術の実証成果に関する報告のほか、ドローンやスピードスプレーヤーによる省力防除の実演等を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加した生産者からは、「紅まどんな」の新梢管理や有機実証ほの栽培管理のポイント、ドローン防除の経費などについて熱心に質問があり、栽培技術の向上、作業の省力化に対する関心の高さがうかがえた。</p> <p>○今後も研修会を継続し、しまなみ地域の柑橘生産力の強化と産地の活性化に努める。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>栽培管理技術の紹介</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>有機栽培実証ほ場の説明</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p style="text-align: center;"><b>【しまなみ柑橘研究会】</b></p> <p>しまなみ地域の柑橘生産者の栽培技術向上を図るため、しまなみ農業指導班の呼びかけにより、平成16年から開催している研修会で、岩城駐在の実証成果を踏まえた新技術の紹介や作業実演などを行っている。</p> </div> </div>				



標 題	青年農業者が新規就農者の悩みにアドバイス		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年9月14日	場所	中予地方局	
指導対象	新規就農者（8人） 松山地区青年農業者協議会員（6人）	連携機関	松山市、東温市	
普及指導内容	<p>○新規就農者の定着と仲間づくりを目的に、就農後概ね3年以内の松山市・東温市の新規就農者と松山地区青年農業者連絡協議会会員との交流会を開催した。</p> <p>○基調講演として東温市のグリーンファーム合同会社 兵頭生久代表取締役社長が、野菜の水耕栽培に取り組んだ経緯や工夫、農業経営における人とのつながりの重要性を語った。</p> <p>○グループディスカッションでは、当室のサポートのもと、就農定着・経営発展に向けた意見交換を行い、就農後の技術的、経営的な課題や悩みについて、先輩となる同協議会会員らが自らの経験を基にアドバイスを行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加した新規就農者からは、「日頃疑問に思っていることが相談できて良かった」「協議会活動にも参加し新たな仲間づくりにもつとめたい」との声が聞かれた。</p> <p>○今後も、新規就農者の定着支援と併せ、青年農業者組織への加入も啓発して行く。</p>			
				<p>左：自らの農業経営について講演する兵頭氏</p> <p>右：新規就農者にアドバイスしながら交流する青年農業者</p>



標 題	愛南町で「儲かる農業交流セミナー」を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年9月14日	場所	愛南町城辺、緑	
指導対象	新規就農者、青年農業者、農業高校生等（131人）	連携機関	愛南町	
普及指導内容	<p>○南予地域の新規就農者、青年農業者、農業高校生等を対象に、「令和5年度儲かる農業交流セミナー」を開催した。</p> <p>○セミナーでは、新規就農者の事例発表や南宇和高校生による「河内晩柑の省力化栽培」プロジェクトの発表をはじめ、地元で儲かる農業を実践している（株）吉田農園代表の吉田浩氏による講演等を実施した。同氏は講演の中で「農業で生き残っていくには、経営の基礎体力に加えて時代の変化に対応できることが重要」と参加者を激励した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「経営者の考え方に触れることができ、とても勉強になった」「リスクを恐れない姿勢に感銘を受けた」などの感想があった。</p> <p>○引き続き、就農間もない農業者へのきめ細かな相談対応や儲かる農業経営モデルの提案、交流セミナーの開催などを通じ、新規就農者の収入向上と定着につなげることにしている。</p>			
				
「儲かる農業」実践農家による講演		優良園での現地研修		



標 題	西洋野菜ラディッキオの栽培面積が増加		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年9月26日	場所	ラディッキオ園地（大洲市）	
指導対象	ラディッキオ生産者	連携機関	大洲市、JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○鮮やかな赤と独特の苦みが特徴である西洋野菜、ラディッキオ（秋作）の定植作業を報道機関に公開した。栽培面積は昨年度から約1.7倍（1.7ha）に拡大している。</p> <p>○生産者に対し、定植後の水管理、カラス避けなどの鳥害対策を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○ラディッキオの産地化は、県（技術）、市（広報）、JA（販売）が役割分担しながら「令和7年までに3ha」という明確なビジョンを共有し、推進している。</p> <p>○当班では、高品質栽培技術確立に向け、今作から肥効比較試験や有望品種の生育調査を実施しており、技術面から大洲産ラディッキオ産地化を支援していく。</p>			
				<p>左：10月下旬に収穫を迎えるラディッキオ</p> <p>右：インタビューに答える生産者</p>





## えひめ農業NOW


標 題	さといも試し掘りと今後の留意点を指導		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年8月31日、9月1日、11日、12日	場所	新居浜市・西条市さといもほ場等	
指導対象	JA周桑・えひめ未来さといも部会生産者	連携機関	JA（周桑・えひめ未来）	
普及指導内容	<p>○管内JAと連携して、8月31日及び9月1日に、新居浜市4ほ場、西条市西条地区2ほ場、西条市周桑地区13ほ場において、さといもの試し掘りを実施した。</p> <p>○また、9月11日、12日に開催された両JAのさといも出荷協議会では、9月11日付け「さといも栽培管理ニュース」を配布し、疫病・ハスモンヨトウ対策及び収穫・調製時の留意事項を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○試し掘りの結果、1株当たり子いも・孫いも重は、新居浜市1.85kg（1.57kg）、西条市西条地区1.40kg（1.43kg）、西条市周桑地区1.51kg（1.46kg）であり、各地区とも近年3か年の平均値と同程度であった。※（ ）内は近年の平均値</p> <p>○一部栽培者から腐敗いもの発生報告を受けているため、今後は状況把握に努めるとともに、選果の徹底と併せて、優良種いもの確保について啓発していく。</p>			
				<p>左：試し掘りを行うJA担当者</p> <p>右：出荷協議会で今後の留意点を指導</p>



標 題	農業機械オペレーターらが農業機械のセルフケアについて学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年9月13日	場所	JA周桑営農管理研修センター	
指導対象	周桑地区集落農業法人の農業機械オペレーター（27人）	連携機関	ヤンマーアグリジャパン（株）、JA周桑	
普及指導内容	<p>○当室はヤンマーアグリジャパン（株）と協力して周桑地区集落営農組織の農業機械オペレーター育成研修会を開催した。</p> <p>○ヤンマーアグリジャパン（株）からは、トラクターとコンバインを使うためのセルフケアについて実演を交えて説明し、当室からは、農作業中の事故の実態及び熱中症対策、大型特殊自動車免許の取得について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○出席者は、これからの水稻収穫作業にあたり、コンバインのセルフケアの重要性を理解していた。</p> <p>○引き続き、当室は管内農業者に対し、農作業安全について啓発していく予定。</p>			
				<p>左：農業機械のセルフケアの実演</p> <p>右：農作業中の事故の実態を説明</p>

標 題	新規就農者の家族経営協定締結・認定農業者認定を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年9月4日、21日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	家族経営協定締結農家（1戸）	連携機関	西条市	
普及指導内容	<p>○当室では、西条市と連携して月3回、就農相談会を開催し、次世代投資事業の活用や青年等就農計画の認定に係る相談、検討を行っている。</p> <p>○今回、1人の新規就農者が、両親と家族経営協定を締結し、共同申請で経営改善計画の認定を目指すことになり、当室は、協定内容や経営改善計画作成の支援を行った。</p> <p>○なお、新規就農者には、えひめ農業未来カレッジ主催の農業革新挑戦塾や、当室主催の就農初期農業者研修会を案内し、積極的な参加を促している。</p>			
結果と今後	<p>○9月4日に、家族経営協定を締結し、9月21日には、共同申請で認定農業者として認定された。引き続き認定のメリット措置を活用した経営支援と、新規就農者には栽培技術等早期自立に向けた支援を行う。</p> <p>○今回の締結により、西条市における家族経営協定締結数は46件となった。</p>			
				<p>左：家族経営協定書に調印する新規就農者</p> <p>右：家族経営協定締結家族と立会人</p>

標 題	新規就農者の販路拡大に向けて		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年9月28日	場所	(株)藤田青果 西条アグリセンター	
指導対象	就農初期の農業者他（6人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○当室が行っている就農初期農業者研修会の受講生から「販路拡大に向け、市場関係者から話を聞く機会を設けて欲しい」という要望があり、管内の(株)藤田青果 西条アグリセンターでの視察研修会を開催した。</p> <p>○当日は西条アグリセンター長から、販路の選択肢に関する話や、取り扱い品目の説明、農業者としての心得、集荷された農産物(さといも)の確認をしながら収穫・出荷時の注意点についての説明を受けた。</p> <p>○終了後、就農4年目の新規就農者のさといも栽培ほ場に移動し、草管理の方法やさといも疫病の被害状況の確認を行い、さといも栽培に関する知見を深めた。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは「販路拡大に向け、いい話が沢山聞けた」「農作業日誌をつけることや、横のつながりを大事にするなど、研修会の中で学んだ農業者としての心得は守っていききたい」との声が聞けた。</p> <p>○当室では、引き続き受講生の要望等も聞きながら、就農初期農業者研修会を開催し、担い手の早期自立に向けた支援を行う。</p>			
				<p>左：西条アグリセンター長の話を聞く受講生</p> <p>右：さといもの取り扱い方の説明</p>



標 題	認定農業者を対象に経営研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年9月7日	場所	西条市地域創生センター	
指導対象	認定農業者（24人）	連携機関	新居浜市、西条市	
普及指導内容	<p>○西条地区認定農業者等連絡協議会では、個々の経営発展に活かすことを目的に、経営研修会を開催した。</p> <p>○研修会では、当室から「えひめ農林水産業振興プラン2021（西条地区）」について説明するとともに、松山地方法務局が来年4月からの「相続登記申請の義務化」について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○振興プランでは、各作物の振興方法、担い手育成等の取組みについて説明し、その方針が理解された。農地を含め相続登記ができていないほ場では、売買や事業に支障をきたしており、早期の登記が必要という意見があった。</p> <p>○当室は、今後も研修会や先進地視察を通して認定農業者の資質向上を図る。</p>			
 <p>相続登記についての研修</p>				

標 題	他地区の青年農業者協議会との交流会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年9月14日	場所	大洲市役所、農家ほ場	
指導対象	西条市青年農業者（9人）	連携機関	西条市、大洲市、大洲農業指導班	
普及指導内容	<p>○SNSでの活発な情報発信活動など、先進的な取り組みを行っている大洲市の青年農業協議会との交流を図り、地域農業の振興に活かすことを目的に、西条市と大洲市の青年農業者協議会の交流会を開催した。</p> <p>○交流会では、SNSの運営方法や今年度の活動に関する情報交換、大洲市青年協議会会員のラディッキオ（西洋野菜）のほ場視察を行った。</p>			
結果と今後	<p>○大洲市青年農業者協議会では定期的にSNSで発信することで、認知度が向上し、イベント時の集客効果があった。</p> <p>○参加者は「SNSを効果的に活用することで、協議会について知ってもらうきっかけを作ることができる」と再確認した。</p> <p>○当室は、さらなる地域農業振興を図るため、今後も研修会や先進地視察を始めとした青年農業者の活動を支援する。</p>			
  <p>左：ラディッキオほ場視察 右：交流した西条市と大洲市青年協議会員</p>				

標 題	地元産はだか麦を使ったみそづくりの撮影		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年9月14日～16日	場所	西条市食の創造館	
指導対象	西条市生活研究協議会会員（2人）	連携機関	西条市	
普及指導内容	<p>○当室では、手作りみその加工技術の伝承と地元産はだか麦などをPRするため、西条市生活研究協議会会員2人の協力を得て、作業工程を静止画と動画で撮影した。</p> <p>○当日は、市内の消費者8人を対象にみそづくり講習会として開催したもので、自宅にある調理器具等を利用し、1人当たり5kgのみそを作成した。</p>			
結果と今後	<p>○会員の2人は地元産材料にこだわった手作りみその継承に取り組んでおり、今後も定期的にみそづくり講習会を開催する予定である。</p> <p>○当室が撮影した静止画はみそづくりの資料に、動画はみそづくりの技術がよりわかりやすく継承できるよう編集することとしている。</p>			







左：説明を聞く参加者  
右：麴の手入れ作業

標 題	四国中央市のさといも収量・品質は平年並みの見込み		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年9月8日（初出荷日）	場所	愛媛さといも広域選果場 （四国中央市土居町蕪崎）	
指導対象	管内さといも生産農家	連携機関	JA うま	
普及指導内容	<p>○JA うまと合同で、市内豊岡及び土居地区のさといもの試験掘りを実施し、本年産さといもの生育状況等を調査、確認した。</p> <p>○今回の調査結果を受け、愛媛さといも広域選果場（JA うま）の今年の集荷は9月8日から始まり、同日に選果され、市場に向けて約6,000kgが初出荷された。</p>			
結果と今後	<p>○例年実施している各地区の代表的農家23人のほ場について、ほ場ごとに3株を抽出して生育状況等を調査した結果、平均収量は4,119kg/10aで、平年比（H30～R4年）100%、前年比92%、秀品率は35%で平年比97%となり、収量は増収、品質はほぼ平年並みであった。</p> <p>○当班は、今後も高品質なさといもを出荷するよう、個別巡回等で指導する。</p>			







左：本年最多収農家の親いも・子いも・孫いも  
右：9月8日に初出荷（秀品M）



標 題	SNS での情報発信を見据えた地産地消研修会の開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年9月11日	場所	JA うま総合経済センター	
指導対象	さくらひめ四国中央会（4人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○さくらひめ四国中央会の新たな取組みとして、SNS での情報発信を見据えた地産地消研修会の開催を支援した。</p> <p>○当日は、市内で人気飲食店を経営する講師を招き、会員が生産する農産物（卵、さといも、ねぎ等）の素材を活かした簡単レシピ（7品）の調理実演を行い、SNS 配信用の素材として、講師が調理する様子の動画撮影を行った。</p>			
結果と今後	<p>○会員は野菜本来の素材の良さを生かした食べ方、見せ方を学ぶとともに、消費者へのアピールポイントを習得することができた。</p> <p>○今後は、当会の Instagram を立ち上げ、レシピ動画の配信や会員のは場等を紹介するほか、商品に QR コードを付与する予定としており、SNS 活用のニーズが高まる中、当班は農業の魅力発信や地産地消の推進に繋がるよう、これらの取組みを支援していく。</p>			
				
		<p>左：講師の調理手順を動画撮影</p> <p>右：Instagram で情報発信予定の地産地消料理</p>		



標 題	いちご定植講習会と花芽検鏡を実施		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年8月31日、9月6日、15日、28日	場所	西条市神戸、西条市丹原、四国中央市中之庄、西条市丹原	
指導対象	いちご生産者（31人）	連携機関	JA（えひめ未来、東予園芸、うま、周桑）	
普及指導内容	<p>○令和5～6年産いちごの定植時期を迎え、定植期から収穫期の栽培管理について、各JA（えひめ未来、東予園芸、うま、周桑）で講習会を実施した。</p> <p>○今年度の秋は高温が予想されていることから、寒冷紗の被覆や十分なかん水、クラウン部の冷却等、定植後の暑熱対策の指導を行った。</p> <p>○講習後、花芽検鏡により花芽分化状況を134検体確認し、適期定植を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「今年は例年になく暑いので、暑熱対策はしっかりやりたい」との声が聞かれた。</p> <p>○管内の花芽分化は、高温の影響でやや遅延傾向であった。</p>			
				
資料を使って栽培管理を説明		顕微鏡で花芽を確認		
<p><b>【いちご花芽検鏡】</b> 顕微鏡を使用し、いちご苗の葉を一枚ずつ取りながら、針で花芽までの葉をめくっていく作業で、花芽分化が確認できると定植可能となる。 定植時期や出蕾・開花・収穫の時期を予想する重要な技術。</p>				




標 題	花木の排水対策の実証を開始		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年9月8日	場所	西条市広江	
指導対象	東予地域管内花木生産者（1戸）	連携機関		
普及指導内容	<p>○通路に雨水が滞水する水はけの悪い水田に植え付けられたユーカリが、枯死するとの相談を生産者から受け、排水対策の効果を確認する実証ほを設置した。          枯死の発生は「ポリアンセモス」と「パルブラ」で見られ、それぞれ定植は令和5年3月12日に行っている。令和5年8月下旬頃に「パルブラ」が10本程度枯死しており、ほ場を確認したところ、水はけが悪く、根域の滞水による株枯れを起こしている可能性があった。</p> <p>○対策として、アースオーガを使用し、ほ場に約3mの間隔で深さ40～50cmの縦穴を開け、もみ殻を充填し、排水性の改善を図った。</p>			
結果と今後	<p>○今後、定期的にはほ場の様子を確認し、株枯れの発生率の調査を行う。</p> <p>○東予地域管内でも花木の新規作付け農家が増えていることから、結果を取りまとめ、JAへの情報提供や講習会などで農家を指導する予定。</p>			
 		<p>左：アースオーガによるほ場への穴開け          右：排水性維持のため、開けた縦穴にもみ殻を充填</p>		


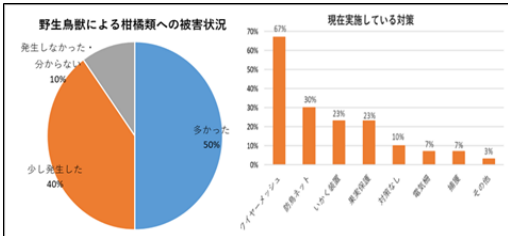
標 題	秋の味覚！今治産さといもの出荷始まる		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年9月7日	場所	JA おちいまばりグリーン富田	
指導対象	JA 里芋部会役員（5人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○令和5年度産「伊予美人」の安定出荷を目的に、JA 里芋部会役員会において出荷計画等を協議した。</p> <p>○協議に先立ち、肥大状況を把握するため、当室とJAが連携し、各地区の代表的な生産者の13ほ場の収量を調査した結果、収量が前年比99%、秀品が前年比102%とほぼ前年並みで、順調な肥大であった。</p> <p>○当部会は、調査結果等を踏まえて9月11日に集荷を開始し、初日は12人の生産者が4.3t出荷した。</p>			
結果と今後	<p>○出荷は来年5月頃まで続き、前年並みの販売額2億円、出荷量1,000tの出荷を見込む。</p> <p>○引き続き、機械化体系の導入による作業の省力化を進め、収穫の負担軽減などの支援を行う。</p>			
 		<p>左：収量調査により順調な肥大を確認          右：初日は12人がJAに出荷</p>		



標 題	集落営農組織が新たにいちご栽培を始める		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年9月15日、26日	場所	JAおちいまばりさいさいきて屋 会議室	
指導対象	集落営農組織1法人 いちご生産者（5人）	連携 機関	JAおちいまばり、農産園芸課	
普及指導 内容	<p>○米麦主体の集落営農組織は、後継者となる若者の受け入れを目指して経営の多角化を進めており、新たにいちご栽培に取り組んでいる。</p> <p>○当法人は、既存ハウスを用いて初めて底面給水により「紅い雫」等の数品種の育苗に取り組み、順調に花芽分化が確認されたことから、9月下旬に高設栽培（るんるんベンチ）3aに定植した。</p> <p>○当室は、この法人を含めいちごを栽培している青年農業者の研修の場を新たに設け、JA・農産園芸課と連携して定期的な栽培講習や先進地事例調査など技術習得に向け指導を行い、産地拡大に取り組んでいる。</p>			
結果と今後	<p>○年末には収穫が始まる見込みで、出荷や販売方法等の調整を進めていく。</p> <p>○来年度にはハウス面積の拡大を計画しており、常時雇用のために安定的な収入を確保し、若者に魅力ある法人となるよう経営改善を支援する。</p>			
			<p>左：JA・農産園芸課と連携した栽培講習会</p>	
			<p>右：技術習得に向けた育苗研修</p>	


標 題	さくらひめメンバーが農林水産業の魅力を発信		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年9月22日	場所	今治市玉川地区	
指導対象	一次産業女子ネットワーク・さくらひめメンバー（1人）	連携 機関	森のともだち農園	
普及指導 内容	<p>○「えひめ農林水産レポーター」に委嘱されたさくらひめメンバーが、今治地域の「えひめ愛顔の農林水産人」を取材し、農林水産業の魅力を発信している。</p> <p>○第1回は今治市玉川町の森のともだち農園を取材。代表の森智子さんや後継者夫婦から、ブルーベリーやマコモタケ栽培の魅力や自然体験（収穫や草木染など）の活動、地域活性化に向けた思いをインタビューした。</p> <p>○取材動画は1分程度に編集し、SNS（Instagram）で発信し、愛媛の農林水産業の魅力をアピールした。</p>			
結果と今後	<p>○レポーターは「取材を通して女性農業者と交流する機会になった。森のともだち農園のかっこいい農業が伝わるようにしたい」と決意を新たにし、今後も月1回程度で農業者を取材していく。</p>			
			<p>【えひめ農林水産レポーター】 農林水産人魅力発信事業において、 女性目線でSNS等を利用して農林水 産業情報の配信業務を担う。</p>	
				
<p>第1回 インタビュー</p>				




標 題	「瀬戸の晴れ姫」一次審査(園地巡回)の実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年9月4日、6日～8日、11日	場所	瀬戸の晴れ姫出荷申請園地	
指導対象	瀬戸の晴れ姫出荷申請生産者(116人)	連携機関	JAおちいまばり	
普及指導内容	<p>○JAおちいまばりブランド「瀬戸の晴れ姫」として出荷するための認定申請のあった163園地1,284haを対象に、JAと一次審査(園地巡回)を実施した。</p> <p>○一次審査では生産者立会いのもと、審査員であるJAと当室がマルチシートの被覆や摘果等園地管理状況のほか、果実肥大や糖度、病虫害発生程度等の品質面から園地を総合的に評価し、可否の判断を行った。</p>			
結果と今後	<p>○審査した園地はすべて適正に管理されており、全園地を合格とした。</p> <p>○今後、11月上旬に一次審査合格園を対象に二次審査を行い、50果の平均糖度が11.5度以上で「瀬戸の晴れ姫」の出荷園地に認定される。</p> <p>○認定園地から出荷された「はれひめ」のうち、光センサー分析により糖度12度以上の果実が「瀬戸の晴れ姫」として販売される。</p>			
<p>【瀬戸の晴れ姫】 JAおちいまばりの「はれひめ」のブランド品。園地認定を行い、マルチシート被覆等栽培管理を徹底し、外観が良く、糖度12度以上、酸度1.0%未満のブランド基準を満たした果実。</p>		 <p>JA職員及び当室職員による園地審査</p>		

標 題	しまなみ鳥獣害対策講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和5年9月12日、14日、15日	場所	今治市島しょ部、上島町	
指導対象	しまなみ地域の農業者等(48人)	連携機関	JAおちいまばり、今治市、上島町	
普及指導内容	<p>○しまなみ管内の野生鳥獣による農業被害の対策を推進するため、伯方、上浦、大三島、岩城等計6カ所で関係機関と連携して鳥獣害対策講習会を実施した。</p> <p>○当班からは、伯方地区で行った被害実態調査を基に、既に行っている対策の再確認と改善策の実施、保守管理の徹底による防護力の向上が重要であることなど、今後の被害抑制に向けた課題を説明した。</p> <p>○また、えひめ地域鳥獣管理専門員は、鳥獣の生体的特徴とそれに基づく防護や捕獲、環境改善など具体的な対策の実施について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、既に実施している対策の不具合や欠点を再確認するとともに、新しい対策機器の効果やイノシシの捕獲について質問するなど、適切な対策の実施に向けた認識を高めていた。</p> <p>○今後も引き続き、関係機関と連携して管内の鳥獣被害の抑制に向けた対策の推進を支援していく。</p>			
		 <p>左：鳥獣害対策講習会 右：被害実態調査の結果 (一部抜粋)</p>		

標 題	西日本豪雨被災園（再編復旧園地）で営農再開に向けた土づくりを開始		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和5年9月	場所	今治市上浦町	
指導対象	JA おちいまばり 新規就農サポートセンター	連携 機関	JA おちいまばり	
普及指導 内容	<p>○西日本豪雨で被災したかんきつ園の復旧が進む今治市上浦町で、JA の研修ほ場として完成した再編復旧園地の一部（約1ha）で営農再開に向けた土づくりを開始した。</p> <p>○造成直後の肥料成分が乏しく有機物も少ない土壌を、かんきつ類の栽培に適する土壌へ改良するために堆肥を投入した後、効果的な土壌改良と表層土壌の流亡を防止するため、9月末までに緑肥作物（ソルゴー）の全面播種を完了した。</p> <p>○また、生産性の高いハウス施設の仕様を検討し、ほ場の立地条件に合わせた建設レイアウトを決定するなど、JA と連携してスマートアグリ技術の導入に向けて具体的な工程を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○来年3月のかんきつ苗木の植栽に向けて、引き続き、再編復旧園地の効果的な土壌改良と流亡対策を支援する。</p> <p>○更に、今回、確認したハウスの建設レイアウトを基に、気象観測装置や遠隔自動かん水システムの導入、設置など、スマートアグリ技術の適切な導入に向けた事業の推進を支援する。</p>			
				<p>左：堆肥の投入状況</p> <p>右：ハウスの建設レイアウト（イメージ図） 【スマートアグリ技術】 ロボット技術 ICT を活用して省力化・精密化・ 高品質生産を実現する新たな農業技術</p>




標 題	グループ結成1周年を迎え活動の幅が広がる		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年9月10日	場所	今治港はーばりー	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ会員	連携 機関	今治市、今治地域観光協会	
普及指導 内容	<p>○例年、夜に開催している「せとうちみなとマルシェ」が昼間の開催となったことに合わせ、会場に設置する地元の農産加工品を販売する特設ブースを、夜向けのワイン等の試飲から物販中心に模様替えをした。同ブースの設置は、昨年のマルシェ開設より16回目となる。</p> <p>○当室では、同ブースを運営する生産者グループ「しまなみみんなのディッシュ」の結成1周年に際して、更なる活動の幅を広げるため、都内イベント等への出展について呼びかけた。</p>			
結果と今後	<p>○新たに販売した「果肉入り自家製シロップによるかき氷」6種類は、70杯以上が販売されるなど、夏場のブース運営の新たな目玉商品になるとともに、県産果実類のPRにも繋がった。今後は今治市内でポップコーン用のトウモロコシを栽培している農業者がポップコーンの実演販売等を同ブースで行う予定としている。</p> <p>○グループ員との協議の結果、オファーがあった都内イベントに同ブースを出展することとなった。（千代田区庭園イベント10月6日、江東区民祭り10月14～15日）</p>			
				<p>左：マルシェに設置した共同販売ブース</p> <p>中：観光客への地元特産加工</p> <p>右：果肉入りかき氷の販売</p>



標 題	リアルタイム農業診断システムを活用した廃液利用によるコスト低減技術実証がスタート		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年9月15、21日	場所	今治市玉川町	
指導対象	甘長とうがらし生産者（1人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○肥料価格高騰対策として、甘長とうがらしの養液栽培の廃液を再利用する区を設置し、実証を開始した。</p> <p>○また、実証ほの状況確認や生産者との情報共有には、県が民間事業者と開発した「リアルタイム農業普及指導ネットワークシステム」を活用しており、生育状況や調査結果の映像を適時確認しながら実証を進めている。</p>			
結果と今後	<p>○養液供給時に栽培ベッドから排出される廃液を分析した結果、EC換算で約80%の肥料成分が残っており、現在廃液を利用した実証区は病害の発生もなく生育は良好であった。</p> <p>○今後は、廃液に残った肥料成分をさらに分析し、廃液の再利用技術の有効性を検証するとともに、別途実証中の単肥配合技術と組み合わせたコスト低減技術の確立に取り組む。</p>			
			<p>左：養液供給時に多くの廃液が発生  中：生産者がシステムで映像を送信  右：職員が現地映像を確認し対応</p>	


標 題	イタリア野菜類の産地化に向けた実証栽培及び地元レストランとの意見交換会の開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年9月15、20、21、22日	場所	実証園地、今治市内レストラン	
指導対象	イタリア野菜類の実証栽培者等(18人)	連携機関	JA おちいまばり、トキタ種苗（株）	
普及指導内容	<p>○イタリア野菜類の産地化に向けた取組みとして、閉鎖型育苗施設で育苗したイタリア野菜類の苗を実証栽培者へ提供するとともに、種子販売の大手のトキタ種苗（株）とJA おちいまばりの担当で園地を巡回し、生育状況等を調査しながら今後の栽培管理について指導した。</p> <p>○また、市内の大型直売所「さいさいきて屋」から毎日食材を購入している今治市内レストランにおいて、生産者が自ら生産した野菜を試食しながらシェフのニーズや要望を聞く意見交換会を開催した。</p>			
結果と今後	<p>○閉鎖型施設で育苗した苗は、完全に根巻き充実したものであったことから、記録的な猛暑の中での定植にもかかわらずスムーズに活着し順調に生育しており、今後も品種ごとの特性等を調査しながらマイナー品目の生産技術の確立を図る。</p> <p>○シェフからは、品揃えと供給の安定、事前の出荷情報の提供等が求められたことから、同直売所等とも協議しながら業務向けイタリア野菜類の生産、供給体制の整備に取り組む。</p>			
			<p>左：実証栽培者への閉鎖型苗の提供  中：トキタ種苗（株）、JA との巡回  右：シェフとの意見交換会</p>	




標 題	浅海原基盤整備園で土づくり研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年9月13日	場所	JA えひめ中央浅海支所	
指導対象	浅海原地区営農部会（10人）	連携機関	農村整備第二課、JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○かんきつ基盤整備を行っている浅海原地区(5.7ha)において、受益農家の土づくりへの意識を高めるため、土づくり研修会を開催した。</p> <p>○当室からは、造成地でのかんきつ栽培には、事前の土づくりが重要である旨の説明と、先行して基盤整備を実施している下難波地区の土壌分析結果及び、堆肥投入量が多い園地では、苗木の初期成育が良く表土流亡も少ないことを報告した。</p> <p>○また、現地の土壌、緑肥種子を持ち込み、現物を見せながら、緑肥による土づくり及び表土流亡防止実証について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○事前の土づくりのための堆肥投入量は、10 t / 10 a 以上を目標として再度農家ごとに周知する。</p> <p>○農家は、造成地の土づくり前後の土壌や緑肥などを直に見ることで、造成後の緑肥栽培に前向きになった。</p> <p>○今後も、苗木定植予定園での土壌改良指導を行うとともに、既定植園での定期的な土壌分析や緑肥栽培による土づくり実証に取り組む。</p>			
				
				<p>左：基盤整備工事が進む浅海原地</p> <p>中：土壌改良の調査結果を報告</p> <p>右：土壌や緑肥の現物を用いて説明</p>


標 題	「どてかぼちゃカーニバル」4年ぶりの開催を支援		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年9月10日	場所	東温市レスパスシティ	
指導対象	東温市青年農業者協議会会員（10人）	連携機関	東温市、JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導内容	<p>○東温市青年農業者協議会が主催する「第38回どてかぼちゃカーニバル」の開催及び運営を支援した。</p> <p>○コロナの影響で、4年ぶりの通常開催となった本カーニバルは、1985年からの開催当初より普及組織が支援し、今では東温市の一大イベントとして定着している。</p> <p>○出品されたどてかぼちゃの大きさ、色つや、形などを競うコンテストの他、かぼちゃを使用したカービングやゲーム、餅まきなど様々な催しを通して来場者と交流した。</p>			
結果と今後	<p>○当日は、出品点数112点、来場者数約2,100人と大盛況を博すとともに、協議会活動をPRする良い機会となった。</p> <p>○出品されたどてかぼちゃとの記念撮影や触れあいを通して、来場者の農産物への関心を高めた。</p> <p>○今後も青年農業者の地域貢献等の活動支援を通し、担い手の育成に努める。</p>			
				
				<p>左：会長あいさつ</p> <p>中：どてかぼちゃとふれあう来場者</p> <p>右：ハロウィンカービングを手ほどきする青年農業者</p>



標 題	障がい者支援機関の連絡会議で農福連携事例を紹介		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年9月1日	場所	愛媛県身体障がい者福祉センター	
指導対象	就労支援等の福祉関係者（50人）	連携機関	えひめ障がい者就業・生活支援センター	
普及指導内容	<p>○障がい者の就労支援活動に携わる機関の連絡会議において、管内の農福連携事例を報告し、「農」と「福」双方にメリットの有る取組みであることを伝えるとともに、JAが窓口をしている農家と福祉事業所のマッチングシステムについてPRを行った。</p> <p>○また、福祉事業所スタッフの農作業スキルを高め、農家からの作業依頼に応じやすくするため、県の「農福連携推進事業」を活用したジョブコーチ研修会の開催について紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○会議後、福祉事業所担当者から、JAへの連絡方法について質問が寄せられるとともに、関係機関担当者からも当室の支援手法に関する質問があり、農福連携に対する関心の高さが感じられた。</p> <p>○管内農家に対しては、農繁期の労働補完の一手法として農福連携を推進し取組みの拡大を図る。</p>			
				<p>左：中予地区の福祉関係者による連絡会議 右：農福連携による作業事例を紹介</p>



標 題	集落営農組織の経営改善を支援		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年9月5日、7日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	伊予地区集落営農組織連絡協議会 員組織（2組織）	連携機関	農業経営サポートセンター	
普及指導内容	<p>○管内の集落営農組織を対象に、農業経営サポートセンターと連携して中小企業診断士を交えた経営相談を実施した。</p> <p>○米麦と野菜が経営の中心である集落営農組織は、恒常的に労働力不足で計画どおりの作付けができていない状況であることから、年間を通じた雇用の確保と作付計画の検討を働きかけた。</p> <p>○また、地域の耕作放棄地の解消を目的に設立された任意組織については、現状では目的を達成しているものの、組織の資産管理が不十分であることを指摘し、法人化による経営管理の適正化を提案した。</p>			
結果と今後	○各組織の課題に対応するため、引き続き農業経営サポートセンターと連携し、経営改善を支援する。			
<p><b>【伊予地区集落営農連絡協議会】</b> 伊予市、松前町、砥部町の集落営農に取り組む任意組合、法人等の連携を強化し、集落営農組織の安定的な運営を図り、地域農業の振興に寄与するため設立。 現在、4法人と任意組織16組織が加入。</p>		 <p>中小企業診断士による経営相談</p>		






標 題	花き生産者と市場をつなぐ！情報交換会開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年9月2日	場所	県農林水産研究所花き研究指導室	
指導対象	伊予花き研究会員(5人)	連携機関	県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○花きの生産振興を図る取組みとして、生産者と市場、運送業者との情報交換会を開催した。</p> <p>○4年ぶりの開催となった今回は、伊予花き研究会の会員を含む生産者、市場関係者18社、運送業者2社が参加した。</p> <p>○生産者が持ち寄った花きやカタログ・出荷リストを元に、生産者と市場担当者が直接情報交換するとともに、当班からは県オリジナル品種「さくらひめ」の生産状況等について、情報提供を行った。</p>			
結果と今後	<p>○生産者は、栽培上の特徴や品種特性などを市場担当者に積極的にアピールし、具体的な商談を進めた。</p> <p>○また、運送業者からは、2024年問題に関する課題とその対策について情報提供があり、生産者・市場と将来的な方向性を共有した。</p> <p>○当班は今後も、伊予花き研究会への支援を通して、管内花き生産の振興と農家所得の向上を図る。</p>			
<p><b>【伊予花き研究会】</b>          会員相互の研究と連携を深め、伊予地域の花き生産の振興を図ることを目的に、平成6年に設立された。現在、鉢花生産者6名で構成されている。</p>				<p>生産者の持ち寄った花き(花鉢)を見ながらの商談</p>

標 題	新規栽培者に雑穀の適期収穫等を指導		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年9月8日～29日	場所	久万高原町入野、大川他	
指導対象	新規雑穀生産者(4人)	連携機関	久万高原町	
普及指導内容	<p>○雑穀の栽培により、高齢者の生きがいがいづくりと荒廃農地対策や地域食材の伝承に繋げるため、地方局予算「久万高原地域食材伝承事業」を実施した。</p> <p>○当班実証ほ場で育苗した「地とうきび」「たかきび」「こきび」の雑穀苗を新規栽培者3人に配布し、栽培された雑穀が収穫期を迎えたことから、適期収穫の徹底と適切な乾燥・調製を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○今後、生産された雑穀を利用し、道の駅等でのメニュー化に向けた活動を展開する。</p> <p>○郷土料理講座を開催するとともに、町内福祉施設と連携し「地とうきび」を使ったクッキー、マドレーヌの商品化を支援する。</p> <p>○地元若者の雑穀に対する関心の喚起や、今後の商品開発への若い感性の活用を目的に、上浮穴高校生を対象とした収穫・脱穀体験会を開催する予定としている。</p>			
		<p>「たかきび」の収穫作業</p>		



標 題	青年農業者が地元篤農家を訪問し技術力アップ		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年9月27日	場所	久万高原町大谷	
指導対象	久万高原町青年農業者連絡協議会員 (9人)	連携 機関	久万高原町	
普及指導 内容	<p>○久万高原町青年農業者連絡協議会は、今年度の協議会活動として、栽培技術勉強会等の開催により会員のスキルアップを図ることとしており、当班では、開催にあたって講師の選定、内容の打合せ等の支援を行った。</p> <p>○第1回目の勉強会では、町内で精力的に農業を営む篤農家のトマトハウスを訪問し、栽培に関する相談や情報交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○会員は、品種やハウス建設、栽培管理について積極的に質問し、技術・知識の習得が図られた。</p> <p>○今後の勉強会については、協議会メンバーの希望に沿ったテーマでの実施を支援。</p> <p>○次回は12月に開催し、税務についての知識向上を図る。</p>			
				<p>左：篤農家に経営や技術について相談する会員</p> <p>右：トマトの生育状況を確認</p>

標 題	パクチーの夏季安定栽培に向けて		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年7～9月	場所	松山市、東温市、砥部町のパクチーほ場	
指導対象	パクチー生産者 (17人)	連携 機関	松山市、東温市、砥部町、JA えひめ中央	
普及指導 内容	<p>○パクチーの周年安定生産体制の確立を目指すため、高温により栽培が困難な夏季（7～9月収穫）における栽培実証に取り組んでおり、そのほ場巡回指導を実施した。</p> <p>○栽培条件や播種時期に応じた技術指導を行うとともに、収穫時期に新葉が黒変する芯腐れ対策としてカルシウム剤の散布試験を行った。</p>			
結果と今後	<p>○ほ場の標高（200～500m）で比較すると、標高が高い程良好な生育を示したが、200m地点では、高温による生育障害等で、8月中旬以降は収穫が困難であった。</p> <p>○6月下旬～7月上旬の大雨により病気の発生も見られたことから、殺菌剤の予防散布が重要であった。</p> <p>○カルシウム剤の定期散布は、芯腐れを軽減する効果が見られ、夏季栽培の安定化に繋がった。</p> <p>○7、8月の出荷実績は、出荷量 342kg（前年比 83%）、販売額 57 万円（107%）であった。</p>			
				<p>左：新規栽培者が初出荷した荷姿</p> <p>右：カルシウム剤散布ほ場では芯腐れの発生が少ない</p>



標 題	さといもの出荷開始を前に掘り取り調査を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年9月11、12日	場所	JA えひめ南管内	
指導対象	JA えひめ南さといも部会員 26 人	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○さといもの出荷開始を前に、三間、津島など管内4地区で開催された出荷打合わせ会において、収穫の際の留意事項等を説明するとともに、地上部の生育や生産者が持ち寄ったいもの着生状況を調査した。</p> <p>○今年は梅雨明け以降も定期的な降雨があったことや、かん水を中心とした基本管理の徹底等により、生育やいもの着生は概ね良好で、昨年よりやや多い生産量を見込んでいる。</p>			
結果と今後	<p>○参加した生産者からは、「手をかけた分、昨年より良いものができた」「高価格を期待したい」などの声が聞かれた。</p> <p>○今年の出荷は9月20日から始まり、翌年3月頃までの長期にわたることから、当室では天候や作業性等を考慮した計画的な収穫・出荷を支援する。</p>			
				<p>左：地上部の生育 右：いもの着生状況を確認</p>




標 題	「第3回ニューファーマー講座」で若手農業者に補助事業の活用を推進		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年9月21日	場所	南予地方局7階第2会議室	
指導対象	新規就農者、青年農業者など19人	連携機関	宇和島市、JA えひめ南 日本政策金融公庫ほか	
普及指導内容	<p>○就農初期の若手農業者や青年農業者等を対象とした、ニューファーマー講座において、関係機関と連携し、担い手対策や果樹・野菜等生産振興、鳥獣害対策などの補助事業の内容や、各スケジュール等を説明するとともに、質疑や意見交換を行った。</p> <p>○当室では、円滑な事業の推進に向けて、出席者にアンケートを行い、今後の事業の活用について意向を調査した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、ため池の整備や農業用倉庫の建設などに使える事業の有無や、申請時期等について多くの質問が出され、補助事業の内容等を理解することができた。また、アンケート結果から、農業者3名の補助事業要望や資金需要が把握でき、関係機関で情報を共有した。</p> <p>○引き続き、補助事業や制度資金の有効活用を推進し、儲かる農業の実現につなげる。</p>			
		<p>事業担当者による説明</p>		






標 題	鬼北町の小学校でぶどうの収穫祭を開催！		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年9月7日	場所	鬼北町立泉小学校	
指導対象	鬼北町立泉小学校 児童	連携機関	鬼北町立泉小学校	
普及指導内容	<p>○食農教育の一環として当班がぶどうの栽培支援を行っている鬼北町立泉小学校で、9月7日に収穫祭が開催された。</p> <p>○同校では9年前にぶどう（マスカット・ベリーA）を定植し、5年生が栽培管理から収穫までの作業を行っている。</p> <p>○収穫祭には全校児童が参加し、5年生がこれまで行ってきた管理作業を振り返った後、ハウスで収穫体験をした。当班から糖度計の使い方を指導し、小学生は摘み取ったぶどうの糖度を測りながら試食を行った。</p>			
結果と今後	<p>○糖度を測定した結果、平均的なマスカット・ベリーAよりも高い房もあり、試食した児童からは「甘くて美味しい」との声があがった。</p> <p>○次年度も引き続き同校と連携してぶどう栽培実習を支援し、体験を通じて農業の魅力を感じてもらい、将来の地域農業の担い手確保に繋げていく。</p>			
				<p>左：ぶどう収穫までの作業を説明 右：5年生が栽培したぶどうを収穫する児童</p>



標 題	きゅうり栽培における環境モニタリングの研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年9月19日	場所	松野町農林公社	
指導対象	抑制きゅうり生産者8名	連携機関	JA えひめ南 松野町農林公社	
普及指導内容	<p>○松野町農林公社の研修用ハウス（きゅうり）で、環境測定装置の活用研修会を開催し、町内の施設きゅうり生産者らが出席した。</p> <p>○当装置は、ハウス内の温湿度などを遠隔地からスマートフォンで確認でき、作業の省力化や適正な栽培管理が可能となる。</p> <p>○当班からは、これまでの測定結果をもとに、生育や植物体の栄養診断、出荷量との関係をグラフで示し、データを活用した栽培管理の手法について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「設置も手軽であり、コストも考慮して導入を検討したい」等の意見があった。</p> <p>○今後は更にデータを蓄積し、環境制御と連動した栽培マニュアルの作成を進める。</p>			
				<p>左：研修用ハウスでの研修会 右：きゅうりの生育状況を確認する参加者</p>



標 題	ドローンを活用した園地状況の調査と寒害対策を高校生に指導		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年9月15、22日	場所	南宇和高等学校平山農場	
指導対象	南宇和高校1、2年生（9人）	連携機関	南宇和高校	
普及指導内容	<p>○南宇和高校が実施する「総合的な探究の時間」で、「河内晩柑」の生産課題の解決に取り組んでいる「農林業チーム」の指導を、当班が外部講師として行っている。</p> <p>○今年度、同チームでは河内晩柑の「低樹高化と密植の解消」と「寒害対策」をテーマに活動している中で、密植の程度を測定するため、同校の園地上空からドローンによる撮影を行った。また、寒害対策用資材の効果を確認するため、摘果した果実を寒害対策用資材に包んで冷凍庫に入れ、時間ごとに凍結状況を調査する手法を指導した。</p>			
結果と今後	○今後、パソコンを用いた園地の3D化と密植程度の把握、資材別の凍結時間や程度を分析し、10月に行われる中間発表会で途中経過を報告する予定としている。			
				<p>左：ドローンによる撮影 右：果実凍結状況の確認</p>


標 題	販路開拓に向けて産直市連携イベントへ出展		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年9月16日～18日	場所	北海道旭川市	
指導対象	—	連携機関	道の駅みま、宇和島市	
普及指導内容	<p>○他県直売所との商品交流や販売機会の増加を目的に、旭川市で開催される「北の恵み食べマルシェ」への道の駅みまの出展を支援した。</p> <p>○さといもやつるむらさき等の地域を代表する農産物のほか、県産かんきつ100%ジュースや飲むゼリー等の定番商品を販売、集客支援として蛇口からみかんジュースの試飲提供を行った。</p>			
結果と今後	<p>○同イベント来場者数は80万人を優に超える盛況ぶりから当ブースへの来場も多く、飲むゼリーやつるむらさきなど完売した商品も多かったことから、現在、「道の駅あさひかわ」で定番商品化されるよう調整を行っている。</p> <p>○12月には、同駅で「媛かぐや」のPR販売を予定しており、引き続き販売機会の創出や農産物の販売促進活動を強化していく。</p>			
				
会場は大盛況		みまブースにも多数が来場		みまの農産物をPR







標 題	産地とつないだ「ライブ食育」で魅力を伝える		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年9月19日	場所	内子町	
指導対象	つるむらさき生産者他	連携機関	(株)楽農研究所、JA えひめ南、内子小学校	
普及指導内容	<p>○旬を迎えている「つるむらさき」について、未来の消費者への認知度向上を図るため、内子町の流通業者と連携して食育授業を実施した。</p> <p>○当日は、「つるむらさき」を使った献立の提供と併せ、3年生2クラスと宇和島市三間町の生産者を同時につないだビデオ会議「ライブ食育」で魅力を伝えた。</p>			
結果と今後	<p>○キャベツ、にんじんと一緒に味付けのりで和えたメニューは独特の臭みが抑えられ食べやすく、児童らには大変好評であった。</p> <p>○給食での提供と栽培現場をつなぐことで食材への興味が高まり、名前の由来や栽培の方法などへ多くの質問が出され、魅力が伝わるきっかけとなった。</p> <p>○現在、大洲・内子地区で「つるむらさき」を安定的に購入できる店舗がないことから、JAと共に市場や流通業者への営業活動を強化し、取り扱い店舗拡大を図っていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>和え物で提供（中央上）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>まずは教室で説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>生産者へ質問する児童</p> </div> </div>				

標 題	連年安定生産に向けた摘果及び土壌分析・土づくりによる効率施肥研修会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年9月7日～15日	場所	伊方町三崎生産者ほ場、三崎柑橘共同選果部会	
指導対象	三崎地区のかんきつ生産者（118人）	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○三崎地区のかんきつ生産者を対象に、連年安定生産と目標階級を目指した果実生産に向けて、中晩柑の仕上げ摘果講習会を開催した。</p> <p>○併せて、三崎地区105園地の土壌分析結果について報告し、酸性化した園地の改善に向けた石灰の施用及び適正施肥の重要性について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○着果量に応じた栽培管理を行うことで、隔年結果を是正し毎年安定したかんきつ生産を目指す。</p> <p>○土壌分析結果を踏まえた石灰資材や堆肥投入により、肥料高騰の環境下においても樹勢の維持を図り、効率的な施肥や収量の増加につなげる。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：清見の摘果指導</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：土壌分析と土づくりについての室内研修</p> </div> </div>				



標 題	労働力確保に向けた手法を学ぶ		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年9月21日	場所	八幡浜支局	
指導対象	八西地区認定農業者・青年農業者・ 家族経営協定ネットワーク・八西生 活研究協議会員（33人）	連携 機関	八幡浜市、伊方町、JAにしうわ	
普及指導 内容	<p>○最新技術の習得や経営管理能力の向上を目的に、八西地区の農業者4組織が主催する「八西農業者フォーラム2023」の開催を支援し、当室では、ジビエ加工品の試食やアシストスーツ等の実演を実施した。</p> <p>○フォーラムでは、経営の大規模化に伴う法人化や経営継承、労働力確保についての動向や事例等の講演の他、当室からは地方局予算「南予儲かる農業人材育成事業」によるマルドリ実証の結果を報告した。</p>			
結果と今後	<p>○収穫期のアルバイト確保に苦慮する中、今後の安定した労働力確保の方法等について活発な議論が行われた。</p> <p>○今後もかんきつ産地の維持・発展のため、関係機関と連携し、大規模経営体の育成や集落で農地を守る組織化・法人化を推進するとともに、安定した労働力確保を支援していく。</p>			
				<p>左: マルドリ実証の結果報告 右: アシストスーツの体験</p>



標 題	大規模トマト法人が IPM 技術を学ぶ		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年9月6日	場所	CBC 予子林（大洲市）	
指導対象	CBC 予子林	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○IPM（総合的病害虫管理）技術の導入を推進している当班が、トマト黄化葉巻病（ウイルス）を媒介するタバココナジラミ防除について、薬剤抵抗性発達の観点から天敵の導入を提案し、今回初めて勉強会を開催した。</p> <p>○タバコカスミカメ（天敵）の効果を最大限に高めるために、天敵個体群を定着させる植物（バンカー植物）と天敵をセットで施設内に導入すること、害虫密度が低い時期から天敵を維持増殖させ害虫の増加に備えることの重要性等を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、天敵の生態やバンカー植物に関する知識が習得でき、今作からの導入に意欲的であった。</p> <p>○当班は、大型ハウスにおける県内導入事例が少ないため、放飼時期、放飼量、放飼回数の見極めやコスト試算により、適切な導入を支援していく。</p> <p>○今後は、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤の採用など、防除体系を見直す。</p>			
<p>【CBC 予子林】 大洲市肱川町で、平成5年度農業 構造改善事業を活用して約1ha の温室を建設し、大玉トマトを養 液栽培する農業法人</p>				<p>7月下旬定植のトマト</p>


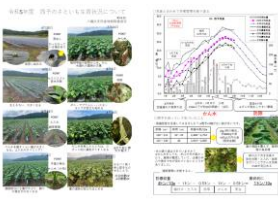
標 題	一次産業女子グループが夜市マルシェを開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年9月9日	場所	大洲市内ほ場	
指導対象	ぷらいまりい会員（5人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○“とっておきの生産物で地域とつながる一次産業女子”を合言葉に、活動に取り組んでいる「ぷらいまりい」が、今回初めて夜市スタイルでマルシェを開催した。</p> <p>○端境期の会員ビニールハウスを活用し、生産している農作物に加え、これまでの活動でつながった地元協力店舗も出店しており、当班は企画指導と運営を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○ハウス内をライトアップした夜市マルシェは、あまり例のない新感覚のイベントであったことから、家族連れなど多くの来場者で賑わった。農作物販売では猛暑での栽培管理の苦労話などを通して、会員と来場者、出店者との交流が積極的に図られた。</p> <p>○今後は、集客力を伴う定期的な活動につなげるため、当班では、PR手法やSNS活用等の先進優良事例を収集し、効果的な情報発信を支援していく。</p>			
				<p>左：ピーマンの詰め放題</p> <p>右：ライトアップしたビニールハウス内</p>



標 題	農作業事故ゼロを目指し青年農業者が農業機械の安全使用を学ぶ		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年9月7日	場所	西予市三瓶町朝立	
指導対象	三瓶町青年農業者（14人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○園地での農作業中の事故を防ぐため、三瓶町の青年農業者（4Hクラブ等）を対象に農作業安全講習会を開催した。</p> <p>○かんきつ農家が園地で使用する機会が多い刈払機、チェーンソー、動噴について、実際に機械を扱いながら、安全な使用方法やメンテナンスの励行が故障や事故防止につながることを説明し、意識の醸成を図った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、農作業を安全に行うため、機械の日常点検や適正な操作、園地環境改善の必要性などについて理解を深めた。</p> <p>○当班では、今後も事故防止に向けた講習会の開催に加え、日々の現場活動で、安全使用リーフレットの配布等による啓発活動を行っていく。</p>			
				<p>左：農作業事故防止に関する講習</p> <p>右：機械の安全使用について説明</p>




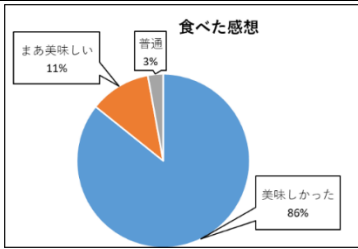
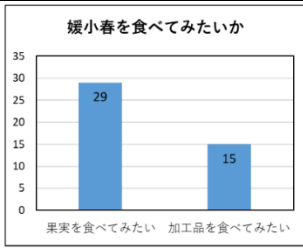
標 題	新規販路を切り開く、商談会で「高原カルストにんにく」をPR！		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年9月21日	場所	愛媛県県民文化会館	
指導対象	大野ヶ原にんにく組員（2人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○大野ヶ原にんにく組合が取り組む高原カルストにんにくの産地化と、販路拡大を支援する中で、当班は、県内量販店・飲食店との商談会に参加し、産地紹介等を支援した。</p> <p>○当日は、20事業者と商談し、高原カルストにんにくの特長を説明するとともに、にんにくの試食、加工品の紹介等、実際に手にとり味わってもらうことで、商品の魅力を伝えた。</p>			
結果と今後	<p>○商談の結果、参加した5事業者と取引に関する具体的な協議がはじまり、取扱商品等を継続協議していく。</p> <p>○今後も、商談結果を踏まえた新たな商品開発、県内外量販店・飲食店への販路拡大の取組みを支援する。</p>			
				<p>左：にんにく加工品のPR 右：加工品・販売促進用リーフレット</p>


標 題	スマート農業を体感		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年9月26日	場所	西予市教育保健センター、カンントリーエレベーター及びほ場	
指導対象	西予市認定農業者、青年農業者、女性農業者、新規就農者、宇和高校生徒、野村高校生徒（84人）	連携機関	西予市、JAひがしうわ、(株)中四国クボタ、(株)マキタ	
普及指導内容	<p>○農作業の軽労化や省力化が期待されるスマート農業技術を学ぶため、セミナー及びスマート機器の展示・実演会を開催した。</p> <p>○参加者にスマート農業の現状等を説明した後、アシスト機能付トラクター、ラジコン草刈機、農薬散布用ドローンの実演見学や、電動運搬車、せん定バサミの操作を体験した。また、アシストスーツの着用体験では、腰や背中へのサポート効果を体感した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者から、「スマート農業への関心が高まった」「管理や収穫作業でスマート農業機械を使いたい」などの声が聞かれ、スマート農業への理解を深める良い機会となった。</p> <p>○当班では、今後も軽労化や省力化に向け、展示・実演会等による体験の機会を設けるとともに、導入・普及に向けた方策を検討する。</p>			
				<p>左：スマート農業技術セミナー 右：スマート機器実演</p>


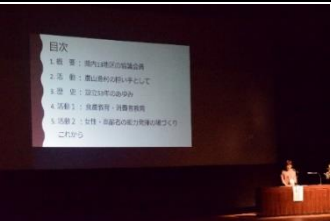
標 題	さといも栽培管理のポイントを振り返りレベルアップ！		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年9月15日、19日	場所	西予市宇和町・野村町	
指導対象	さといも・水稲生産者等（8人）	連携機関	JAひがしうわ、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○西予市では、さといもの新たな産地づくりに取り組んでおり、出荷目合わせと合わせて、栽培講習会と収量調査を行った。</p> <p>○当室は、今年度の生育状況を踏まえた栽培管理の振り返りと、次期作に向けて畝立て等の栽培管理を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○さといも生産者からは「記憶の新しいうちに栽培管理を振り返ることができた」水稲生産者からは「次期作からさといも栽培にチャレンジしたい」などの意見が聞かれ、栽培意欲を向上させることができた。また、今年度重点的に指導してきた土入れ作業やかん水管理が、昨年よりも丁寧に行われており、調査区では子・孫いも重が前年比30%増加した。</p> <p>○基礎的な栽培技術を生産者に定着させ、生産者が継続してさといもを栽培したいと思えるよう、定期的な栽培指導を通して技術の向上を図り、所得拡大につなげる。</p>			
				<p>左：栽培状況の説明 右：講習会資料</p>

標 題	西予産ねぎ、地産地消マッチングフェアへ出展		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年9月21日	場所	愛媛県県民文化会館	
指導対象	(株) 百姓百品村	連携機関	食ブランドマーケティング課	
普及指導内容	<p>○同法人は、ねぎの新たな販路開拓等に取り組んでおり、八幡浜支局では、これまで学校給食等の新たな販路のマッチング等を支援しているところ。</p> <p>○同産地をPRし、県内での新規の販路開拓につなげることを目的として、地産地消マッチングフェアへの出展を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○中華料理店やホテル等6社がブースに訪れ、ねぎの商談が実施された。価格や周年安定供給に魅力を感じることから購入を検討したいとの声もあがっていた。</p> <p>○今後、県外商談会への参加を検討する等、ねぎの販路獲得につながるよう継続して支援していく。</p>			
				<p><b>【株式会社百姓百品村】</b> H20年に耕作放棄地を借り受けて青ねぎを生産販売する農業生産法人として設立され、地域の青ねぎ契約農家とともに産地の活性化に取り組んでいる。グループ会社の株式会社野村福祉園が農福連携により青ネギの調整作業等を担う</p>
マッチングフェアでの商談対応				



標 題	媛小春への期待値上昇中		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室														
年月日	令和5年9月21日	場所	八幡浜支局															
指導対象	八西地区認定農業者・青年農業者・生活研究協議会・家族経営協定締結農家(33人)	連携機関	八幡浜市、伊方町、JAにしうわ															
普及指導内容	<p>○南予管内の栽培農家及び販売事業者等が参画する「南予の媛小春」魅力アップ協議会は、県オリジナルかんきつ「媛小春」の生産・販売拡大を目的に各種事業を展開している。</p> <p>○八西地区の地域農業を担う各農業関係組織が一堂に会する機会に合わせ、新たな商品化による認知度向上策として媛小春ゼリーを試作し、アンケート調査を実施した。</p>																	
結果と今後	<p>○媛小春ゼリーは、昨年度シラップ漬けの試作に協力してくれた地元会社に依頼。ゼリー部分に媛小春ジュースを使用し、シラップ漬けの果肉をそのまま入れたゼリーが出来上がった。</p> <p>○試食の反応は非常に良く、ほぼ全員が「美味しい」との回答であったが、媛小春自体を知らない方も多かったため、引き続き果実のPR販売や新たな加工品開発を通して媛小春の魅力を発信していく。</p>																	
 <p>試食用媛小春ゼリー</p>		 <p>食べた感想</p> <table border="1"> <tr><th>感想</th><th>割合</th></tr> <tr><td>まあ美味しい</td><td>11%</td></tr> <tr><td>普通</td><td>3%</td></tr> <tr><td>美味しかった</td><td>86%</td></tr> </table>		感想	割合	まあ美味しい	11%	普通	3%	美味しかった	86%	 <p>媛小春を食べてみたいか</p> <table border="1"> <tr><th>種類</th><th>人数</th></tr> <tr><td>果実を食べてみたい</td><td>29</td></tr> <tr><td>加工品を食べてみたい</td><td>15</td></tr> </table>	種類	人数	果実を食べてみたい	29	加工品を食べてみたい	15
感想	割合																	
まあ美味しい	11%																	
普通	3%																	
美味しかった	86%																	
種類	人数																	
果実を食べてみたい	29																	
加工品を食べてみたい	15																	
		試食アンケートの主な結果																

標 題	若手普及員の技術力向上に向けて		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年9月7日	場所	農林水産研究所	
指導対象	普及指導員	連携機関	農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○若手普及員は、現場経験年数が少なく、いちご花芽検鏡技術を習得できていないため、農林水産研究所の協力を得て、実技を交えたいちご花芽検鏡講習会を開催した。</p> <p>○ベテラン普及指導員が、事前の前処理方法や顕微鏡を使って未展開葉の除去方法を手ほどきした。</p>			
結果と今後	<p>○若手普及員からは、「実際に自分がやりながら指導してもらったので、コツがつかめた」「練習をたくさんして、技術を身に付けたい」との声が聞かれた。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、若手普及員の技術力向上に取り組む。</p>			
 <p>花芽状況を確認</p>		<p><b>【いちご花芽検鏡】</b> 顕微鏡を使用し、いちご苗の葉を一枚ずつ取りながら、針で花芽までの葉をめくっていく作業で、花芽分化が確認できると定植可能となる。 定植時期や出蕾・開花・収穫の時期を予想する重要な技術。</p>		

標 題	県内女性農業者の交流と郷土食の伝承を図る		機関名	農産園芸課 企画調整グループ	
年月日	令和5年9月6日	場所	松前総合文化センター		
指導対象	県内女性農業者及び関係者 256名 (内、県内女性農業者 194名)	連携 機関	農地・担い手対策室 各局支局地域農業育成室 市町、愛媛県農業会議		
普及指導 内容	<p>○世代を超えた交流による地域農業の課題解決に向け、愛媛県農山漁村生活研究協議会員と一次産業女子ネットワーク・さくらひめメンバー等を対象に「愛媛県女性農業者交流会」を開催した。</p> <p>○これは、県内農山漁村の女性リーダーが交流し、互いに連携や交流するため、各組織が開催してきた大会と交流会を初めて合同で開催したもの。</p> <p>○郷土食展示やマルシェ等に加え「農作業・農業DX展」及び「県内女性農業者等の活躍事例展」等を新たに実施し、女性リーダーの資質向上と相互理解及び連携体制の構築を図った。</p>				
結果と今後	<p>○アンケートでは「とても良い」・「良い」の回答が80%以上で、「やる気をもらえた」「若い方たちとの交流ができて良かった」といった前向きな声が聞かれ、交流の重要性を再確認した。</p> <p>○また、農繁期にも活用できる「地域食材を使用した忙しいときのお助け料理」の展示とレシピ配布は好評で、地域や世代を超えた食の伝承につなげることができた。</p> <p>○女性農業者組織の活動支援と女性リーダー指導を継続し、地域や世代を超えた連携と農山漁村における女性活躍を推進する。</p>				
					<p>左：「忙しいときのお助け料理」の一例)</p> <p>右：愛媛県農山漁村生活研究協議会長の</p>

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543